

第3号議案 2021年度事業計画(2021年4月～2022年3月)

特定非営利活動法人 かながわ避難者と共にあゆむ会

1. 事業の取組みについて

東日本大震災の発生から10年の歳月が流れました。震災と福島第一原子力発電所の事故が東北地方に及ぼした影響は年月を経てもいまだ多くの課題が残されている現状である。

特に福島県においては、原発事故による汚染処理水海洋放出の政府方針決定や先が見えない第一原発の廃炉・解体問題など重いテーマの先行きが見えない状況が続く。高台移転鉄道の運行などハード的な復興が報じられる一方、増えない住民問題やコミュニティ再生などの課題がある。

さらに震災を直接の起因としない震災関連死と呼ばれる亡くなり方をされた避難者が、全国で3,767人いた(2020年9月30日時点のデータ)福島県内の死亡が2,313名と突出して多く、宮城、岩手が続く。数は多くないが、広域避難者も茨城42名、千葉4名、この神奈川と長野が3名という。さらに復興庁のデータによると、震災関連死発生の件数は減ってはいるものの、2020年3月の調査まで増加しているという事実がある。

原発事故直後から放射能という見えないものへの恐怖に対して強いストレスを抱えながら県内外に避難した。避難先では慣れない環境に孤立感を深めるなど、強いストレスに繋がった。近年では避難先での住宅支援が打ち切れ、引っ越しや、やむなく帰還する等の判断を強いられる。様々なストレスを抱え、それが震災関連死や自死に繋がってしまうのではないだろうか。

震災から10年経ち、個々の避難者の抱える課題は多様化している。さらに昨年2月からのコロナ禍で直接のコミュニケーションが難しく、個々人が抱えるお困りごとを相談する機会が失われていることから、困っている方が見えにくくなっている。そのような状況にある避難者を見つけ、話を聞き、少しでも気持ちを寄り添い、解決できる機関につなぐ、そのことがますます重要になってきている。

今期の活動は、当初予算はほぼ前期の内容を継承しているが、前述のような状況を踏まえて、お困りの方を見つけていくことに注力したい。活動はコロナの状況を注視して、安全第一に考えて、延期、中止等柔軟な対応をとっていく。前期に実施した、オンラインや動画への取り組み、前期からの往復ハガキの活用、感染予防に配慮したご自宅近くでの直接コンタクトも検討していきます。

2. 事業計画

2-1. 2021年度福島県県外避難者帰還・生活再建支援助成事業 (福島県補助事業)

※以下予算額に人件費・交通費は含まれない

(1) 第13回ふるさとコミュニティ in かながわ開催

開催日：未定

開催場所：波止場会館予定

参加者：コロナ感染予防対策を講じた上で、ヨーガお茶っこ、ものづくりコーナー、オンライン交流等を予定

予算額：340,000円

(2) 福島・神奈川避難者交流会 in 福島

開催日：未定

神奈川から福島県への帰還者と神奈川の避難者との交流会を福島県内で開催し、互いの情報交換と交流を深める

予算額：1,215,000円

(3) 当時者団体バスハイク支援

開催日：未定

予算額：200,000円

(4) 会報「ともにあゆむ」の発行、行事案内およびお知らせ

発行日：年度内5回（隔月）

予算額：700,000円

2-2. 2021年度福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

（ふくしま連携復興センター委託事業）

※以下予算額に人件費・交通費は含まれない

(1) 避難者出張個別相談

直接対面で相談対応を想定

予算額：72,000円

(2) 安否・生活状況確認

来所・メール・電話・郵便はがき（3回分）による相談対応

予算額：168,000円

(3) 神奈川散歩カフェ

開催日：年度4回

予算額：26,000円

(4) 県サポ（ヨーガ）お茶っこ

開催日：年度内5回（内1回はふるこミュ会場）

予算額：88,000円

(5) テーマ別お茶っこ

開催日：年度内2回

将棋お茶っこ、いけばな or 水引お茶っこ

予算額：85,000円

(6) 神奈川県内出張地域お茶っこ

開催日：年度内3回

開催場所：未定

予算額：45,000円